

2022-23年度 ◆クラブ会長テーマ◆ 「八重山の未来のために行動しよう」



イマジンロータリー

2022-23年度RI会長テーマ

RI会長：ジェニファーE. ジョーン

地区ガバナー：嶋村 文男

◇ ガバナー信条 ◇

“Take Action for Rotary Future”

“Reach Out for World Peace”

“ロータリーの未来のために行動しよう”

“世界の平和のために手を差しのべよう”

今月のロータリーレート 1\$¥133

## 島の水景 ～石垣島の水散策～

### 【白保海岸】

白保海岸は島の東部にあり、ほぼ手つかずの美しい自然が残る天然ビーチで、アオサンゴの大群落が見れることでも有名なスポットです。何もない海岸線に、岩で四角く囲われた場所があり、満潮時の船着場になっています。白保海岸はサンゴ保全のため、浜からの遊泳を禁止しています。

出典：環境省ホームページ

[https://www.env.go.jp/park/iriomote/photo/a03/a03\\_p010.html](https://www.env.go.jp/park/iriomote/photo/a03/a03_p010.html)



4月のプログラム

4/26(水)ゲスト卓話

ガバナー補佐：仁開 一夫 会長：大浜 勇人 副会長：前原 博一  
幹事：松田 新一郎 副幹事：今西 敦之  
公共イメージ委員長：山下 暢 SAA・出席委員長：大本 綾子

例会日 水曜日 12:30～13:30  
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4  
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311  
TEL/FAX(0980)83-2917  
E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)

☆総会員数：54名（名誉会員2名・出席免除会員2名）

☆出席義務会員数：50名

☆出席人数：24名 欠席人数：26名 出席率：48.00%

《司会進行：大本綾子》

☆ロータリーソング：奉仕の理想 ロータリアンの行動規範

☆ソングリーダー：国仲恵亮

☆ゲスト：和田亮平様（JAおきなわ八重山畜産振興センター畜産部 畜産課長）

☆ピシタ：新田喜信様（第2630地区 可児RC）

会長挨拶  
大浜 勇人



宮古島沖の自衛隊事故の残りの方が1日でも早く見つかる事をお祈り申し上げます。先週の金曜日に地区研修協議会に行きまして。その前日に、上野RCからお誘いがありまして、オペラを観てきました。第37回奏楽コンサートを上野RCが昭和62年から東京藝術大学の生徒さんを支援していて、上野公園のなかにある奏楽堂で続けられているイベントに参加して参りました。オペラを初めて観ました。イタリア語で予想通り意味は分かりませんでした。2時間の講演でした。演舞が全く分からないので、どうやったら楽しめるのかを考えていました。歌の中でそのストーリーに準じた話の中に入れながら歌と演劇をしているんだなということに気づきましたが、それでもわからない。正面にグランドピアノあり演劇は進んでいきますけど、耳を澄まして高い音、低い音の出し方を拾いながら観ていたら面白くなってきました。学生さんも参加していますが、有名な先生方も3人ほど入って演じてらっしゃるんですね。やっぱり学生さんと、外国などで経験を積んできた先生方とのレベルの差が全然違います。音を感じることでだいぶ分かってきて、音の高低差、脳みそに響くような音の面白さを感じることはできました。初めてのオペラでどう楽しむ方をしたらいいのかなと模索ではございましたが、いい体験ができたと思いますし、37年も続けてきた上野RCのこの活動について素晴らしいと感じることができました。我々も同じような事を行っています。指田文庫、5/10に竹富小中学校に行って寄贈式をやってきました。これは20年間やっています。我々もこの事業を継続してやって行けたらと考えております。お金の使い方に関しましては、本でなくてもいいよと僕は思っています。サッカーボールになろうがタブレットになろうが、子供たちの為に使って頂ければそれでいいのかなと思います。今日は、和田様からの卓話で石垣牛についてです。宜しくお願い致します。

☆ 幹事報告・松田 新一郎 ☆

移動合同例会のご案内です。2018年6月に、当クラブと宮古島RCとのクラブ交流契約書が締結され、お互いの例会場へ訪問し交流を深めて参りましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまでの交流が中断されていました。今年の2月に宮古島RCの会員が来会し、クラブ交流が再開いたしましたので、今度は当クラブが宮古島へ訪問し、交流する運びとなりました。開催日時は、5/19(金)19時、場所はレストランのむら、登録料は5千円を予定しています。当日は、宮古島RCの方がミニ観光を計画して頂いています。宮古島からは、6名の方が来島

しましたので、こちらからは倍の人数で訪問したいと思いますので、皆様スケジュールの調整を宜しくお願いいたします。

☆ 会員・委員会からの報告 ☆

仁開一夫ガバナー補佐：お手元に合同例会のチラシがございます。私と講師の鈴木一作(山形のパストガバナー)さん、ジャンチブさんの写真が載っています。新しい会員は分からないと思いますが、IM大会、インターシティミーティングというのが毎年ありました。沖縄分会でやっていたのですが、IM大会ではなく今回は、合同例会にして欲しいとガバナーのお達しです。沖縄分会は2人のガバナー補佐ですので、私のグループと田畑グループで分けて行うようガバナーからの指示がありました。奉仕の理念は一人ずつ違います。それはいいですが団体としての奉仕もあります。それをバランス良く取り入れたのが、決議23-34です。団体と個人をミックスしてバランス良くして奉仕の活動をしようという決議です。決議23-34というのは、セントルイスで1923年に決議されたので、23-34の決議と言っています。今年のRIのテーマは、IMAGINE ROTARYです。ROTARYの奉仕の理念を一人一人が心に描き、行動を通して素晴らしいロータリアンになりましょう、というのが簡単に言うと決議23-34なんです。今回の合同例会では、卓話に「米山奨学事業」をモンゴルのジャンチブさんが話し、次に鈴木一作さんの「クラブ奉仕」というのはどうということかというのを勉強します。その後、テーブルディスカッションです。ディスカッションについては、クラブで固まらないよう席をバラバラにします。それで、各クラブがどう奉仕をしているかという新しい発見があると思います。新入会員はもちろん、多くのロータリアンが参加するようにお願い致します。那覇で開催しますので6/16(金)は皆さんの予定に入れといてください。場所はホテルコレクティブで、登録開始15:30、懇親会は19時からで20:30には終了です。登録料は6千円です。今年のメインはこの合同例会ですから、宜しくお願いいたします。

玉城力公共イメージ副委員長：私事で恐縮ですが、5/1付けで宮古島に異動になりました。石垣RCには後任がおりますので引き続き宜しくお願い致します。5/19には、宮古島の方で迎えたいと思います。次年度は委員長とのことでしたが、ご相談させて頂きたいと思います。大変お世話になりました。来週までは参加させて頂きしますので、宜しくお願い致します。

森田安高国際委員長：国際大会について、石垣RCからは当初14名いましたが、最終的には8名になり、その他に、那覇南RCの喜屋武さんと仲田さんが石垣クラブと合流して10名の人数になりました。無事に帰って来れるよう行動したいと思います。また、次回の例会の時に報告したいと思います。

☆ 会員卓話：和田 亮平 氏 ☆

(JAおきなわ八重山畜産振興センター畜産課長)

☆テーマ☆

八重山から全国へ～あのブランド牛は八重山生まれ!～  
幻のブランド牛「石垣牛」～石垣牛って高値なの?～

私の出身は、埼玉県所沢市です。大学4年生の頃に、石垣牛の生産と流通というタイトルで、卒業論文を書きたいということで初めて石垣島に来島しました。当時その時は船で来るのができたので、自転車を積んでノンアポで石垣に来て、その時にたまたまお世話になったのが、JAおきなわ畜産部の方々に協力して頂いて、卒業論文を書き終える事ができました。いったん内地で

就職をして旅行会社に勤めたんですが、石垣島にどうしても来たいということで、アルバイトから始めさせて頂いて、畜産部で6年間、その後、融資の方で5年ほど担当して、3年前に畜産部に戻って現在に至ります。本日は、不慣れでお聞き苦しい点もあるかと思いますが、最後まで宜しく願い致します。八重山から全国へ！～あのブランド牛は八重山生まれ！？～ 皆さん聞いた事はあると思いますが、石垣島で子牛がたくさん育てられてセリにかけられて、それが全国の都道府県に行き、そこでまたいろんなブランド牛になっている、その内情を数字を見ながら皆さんにお伝えできればと思います。牛の将来には大きく分けて3つのパターンがあります。第一にお肉になる牛、生まれた時に雄、雌の両方ともお肉になる可能性があります。雄は、生後3ヵ月ぐらいから5ヵ月ぐらいで、みんな去勢をします。そうしないとお肉の臭いが臭くなってしまったり、風味が落ちてしまいますので、必ず去勢をします。実際に、子牛が生まれると、その子牛を育成します。だいたい8ヵ月から10ヵ月ぐらい農家さんの方で子牛を育てます。その育てた牛を、出荷してセリ市場に持って行き、子牛のセリが開催されます。ここで1頭あたり60万円とか、安い牛で30万円とか、高い牛だと100万とか、この前石垣で1千万の牛が出たという話もありました。この子牛のセリが毎月1回、黒島は月に2回行なわれています。そこで内地の購買者さんが牛を買って行って、だいたい20ヵ月ぐらい肥育といって、どんどん穀物を与えて太らせます。あるいは、子牛の育成をしてそのままセリにかけずに、牛舎に留めてそのまま太らせるというパターンもあります。20ヵ月肥育すると、子牛が肥えて大きい体形の牛になります。それを今度は食肉センターに出荷することで、枝肉にして、格付けと言ってAの5等級とかAの4等級とかに格付けされ、セリにかけられてお肉屋さんへ売られていきます。これがお肉になる牛の一生です。続いて、お母さん牛になる牛です。石垣中にいろんなところで放牧されて歩いている牛がいますが、あの中に雄はいません。全てお母さん牛です。このお母さんの生涯は、子牛が誕生するとそのまま子牛を育成して、牛舎に届けます。だいたい14ヵ月ぐらいで種付けをします。種付けをしてそこから子牛が生まれて、というサイクルを繰り返します。セリ市でお母さんの候補になる雌牛を買うというパターンもあります。一頭の母牛から多くて12、3回子牛を生みます。もう一つ大変レアなケースですけど、種牛になる牛、これはもちろん雄だけです。先ほど、去勢をする話をしましたが、中には去勢をしないで、そのまま精子が作れるように玉を残す牛がいます。子牛が誕生したあと、去勢をせずに牛を大きく育成して、大きな種牛になりますが、これは何万頭に1頭の割合なのでほぼいないです。非常に優秀な血統だったり、優秀な遺伝子を持ったお母さんから生まれた牛とかを、県を上げてそういうデータを追って、1頭に絞って生まれた牛を県が買い上げたりとか、そういった形で種雄牛というのを作っています。こうして牛の将来は大きく分けて3つのパターンがあります。そもそも八重山に牛が多いのか？母牛になる牛に焦点を当ててお話を進めていきます。肉用牛(繁殖用)都道府県別の飼養頭数ランキングですが、第一位に、鹿児島県で323,100頭、第二位が宮崎県229,000頭、第三位に、北海道201,000頭、北海道は多いイメージがありますが、乳牛が多いです。肉用牛では鹿児島、宮崎県には及ばないです。第四位に熊本県133,600頭、五位に沖縄県77,500頭で、四位の熊本県と比べても数字的にだいぶ離されているように思いま

すが、例えば宮城県とか岩手県、大分県とか牛が盛んなところよりも、頭数が多いですし、面積では沖縄と熊本を比べると三分の一ぐらいの面積にも関わらず頭数は二分の一、なので3つの都市では北海道よりも、宮崎県よりもむしろ多いという形になっています。沖縄県の伸びしろは、まだまだあるように言われています。北海道と沖縄が今後伸びてくるんじゃないかと言われています。沖縄県内の地区別飼養頭数、全国の家畜市場取引頭数ランキングはどうなっているのかと見てみますと、令和2年度のデータですが、八重山地区が30,109頭、パーセンテージにすると4割が八重山地区におりますので、非常に八重山地区というのは、沖縄県内で飼養頭数が多くて、全国的にも多く、中でも八重山に牛が集まっていることになっています。セリ市場は全国に80ヶ所ありますがその中で、一位から五位の取引頭数のランキングを見てみますと、第一位、二位は北海道、三位に宮城総合、四位に鹿児島曾於、五位に宮崎、宮城総合は県に一つしか市場がないので県中の牛が集まるので取扱頭数が多くなります。第十二位と第六十八位に八重山市場と黒島市場が入っています。頭数で言いますと八重山が8,284頭、黒島が889頭、これを同日に開催しますので、足すと9,173頭で第十位になり、八重山地域は全国的にも非常に頭数が多いです。よって八重山地域は全国的に見ても肉用牛の繁殖地帯である、そしてその一番の理由というのが、一年中豊富に採れる「草」、これが北海道とかですと年に1回とかしか採れません。多くても2回です。でも石垣の場合は4回まで採れます。頑張れば5回「草」が採れますので、いま物価がどんどん上がって海外から草を買うのがもの凄く高いんです。これを地元で補えるというのが、最大の八重山地域の武器です。沖縄本島でも土地がなくてなかなか出来ません。なので八重山というのは、そういうのが盛んで非常に飼養頭数が多いという状況になっています。その石垣島で生まれた子牛が全国に持って行かれる内訳を見てみます。石垣地域から九州地域に年間6,153頭、6割から7割弱が九州に運ばれて行きます。四国は少なくても129頭、近畿・山陰・北陸と範囲は広いですが785頭、関東に487頭、北陸に506頭、石垣に残るのも含めて沖縄で1,108頭というような内訳になります。これを更に細かく見てみると、鹿児島県で、一番飼養頭数も多いですし、場所が近いということもあって3,610頭、これは鹿児島黒牛という大きなブランドがあって、ほぼこちらのブランドになっているのが多いです。宮崎県で言えば当然、宮崎牛になっていますし、佐賀県889頭こちらも多いですけど8割方、佐賀牛になっています。長崎県は大きなブランドはないですが、1年に10万頭ぐらいお肉になる牛を飼っている大きな購買者さんがいらっしやって、その方が沢山買われるので頭数が多くなっています。また兵庫県でいうと神戸牛91頭で、数は少なくなっていますが、一部神戸牛にもなっています。三重県でいうと松坂牛59頭、一つの業者さんですが、継続的に購入して頂いています。山形県は米沢牛216頭、こちらも一つの業者さんですが、継続的に牛を買って頂いているという形で、沖縄、八重山から全国のブランド牛になっているという実績がございます。では、セリ牛の中からJA石垣牛になる割合は？沖縄には1,108頭の牛が残りますが、その内訳は、沖縄本島では、肥育になる牛が256頭、繁殖の牛が3頭で、ほぼお肉になっているのと、本部牛って聞いたことあるかと思いますが、256頭は全て本部牛になります。石垣に残る牛が肥育に673頭、地元だと繁殖で買う方もいらっ

しゃって繁殖に176頭です。肥育の中からその他という表現をさせて頂きましたが、その他には石垣牛でもゆいまー牧場さん、美崎牧場さん、きたうち牧場さんにも石垣牛を販売させて頂いております。JA 石垣牛としては590頭、その他で83頭の購入実績があります。つまり9,168頭中、昨年590頭が石垣牛になる地元に残り、プラス自家保留して肥育された牛がいますので、石垣島での飼養頭数として、だいたい1,500~1,600頭ぐらいの石垣牛が飼養されていることとなります。実は、日本一！？ある数を示していますが、長野県飯田市が一位で数が53、沖縄県石垣市が二位で25、必ずしも正しい数ではないですが、これは焼肉屋さんの数です。島内にある焼肉屋さんの数が人口、1万人に当たり沖縄県石垣市は全国市町村で第二位です。これはタウンページに載っている数を数えた数字です。ニュースとかにもたまに出ます。ただ、タウンページに載っていないところも沢山あります。多分50件以上あります。長野県飯田市の53というのも他もあるでしょうけれども、向こうは鹿とか豚だったりホルモンだったり、いろんな焼き肉屋さんがあるんです。牛に関する焼き肉屋さんの数というは、正式に発表はされていませんが、間違いなく石垣市はずば抜けてNo.1だと思います。石垣牛のセリは、お肉屋さんが直接買い付けに入ったりします。仲卸もないので、ダイレクトにお肉を持って帰れるところで、非常に経費が安くつくんですね。中間のマージンを取る方がいないので、距離感が近いので、その分で高値がいま維持できている、それでもお肉屋さんがなんとか続けていけている、というような状況になっています。因みに松坂牛なんかも、東京でバンバン販売しています。県外に持って行って、県外で屠殺をして、県外でセリをしたり、というふうをしているので、地元だけでセリをしているという石垣牛は全国でも珍しいパターンです。そういったなかで、石垣牛は非常に高いです。課題として上げられるのが、増頭を回って需要と供給のバランスを合わせないと、いくら何でも高すぎるとというのが正直なところだと思います。それをやるためには、新しい牛

舎の整備、運ばないと育てられません。なので新しい牛舎が必要になってから資材が高騰して、なかなか難しいという現状です。プラスアルファ、牛を増やすと買うお金、餌を買うお金、牛舎を建てるお金、運転資金の莫大な金額が必要になってきます。この辺を行政としてJAとして、どれだけバックアップできるか、というところが今後の増頭のカギになってくると思います。それから高値販売を継続するための活動として、県内外、あるいは海外へ向けるとも認知度をアップさせて営業をしていくことが必要。それともう一つは、更なる付加価値の創造。石垣牛は、全国で唯一エサを統一しています。松坂牛さんとかは、農家さんに売って、牛にあげているエサが全然違います。地域が一緒なだけで、あげているエサが全然違う、でもJA石垣牛の農家さんは、みんな同じエサを使ってくださるので、味がブレないんです。これをお肉屋さんに話すと、非常に珍しいし、魅力的だということをおっしゃってくれています。そういう付加価値を更に大きくしていく必要があると思っています。これらの活動をすることで、後継者や新たな担い手を確保する、ということに繋がるかなと思っています。この付加価値の創造というところに、もう少し細かいポイントがあるのかなと思っています。島内で排出される副産物を利用した形で付加価値がつけられないか、例えばサトウキビの梢頭部を乾燥させて肥育牛にあげたり、あるいはパイナップルのカスをあげたり、泡盛の搾りかすをあげてみたりだとか、そういった形で副産物を活用してみたらどうか、そうすることでよく言われるSDGs、県外から、海外から持って来なくても島内でそういった物を活用しながら付加価値が高められれば、もしかしたらここにいらっしゃる皆様方と石垣牛、ブランド牛の付加価値を一緒に造って行きませんかということで、お声掛けさせて頂くこともあるのかなあということで、今後とも石垣牛のこと、八重山の畜産のことを見て頂ければと思います。簡単ではございましたが、以上で私の発表を終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました

### ～ 例会風景 ～



和田亮平様 卓話ありがとうございました。

**本日のニコニコ:** ☆大浜勇人氏: 和田様 卓話ありがとうございました。

☆仁開一夫氏: 和田課長 卓話卓話ありがとうございました。☆森田安高氏: ゲスト卓話 和田さん!!卓話ありがとうございました。

☆橋本孝来氏: 次男が結婚しました。☆垣本徳一氏: 新田様、どうぞごゆっくりお過ごし下さいませ。地区研修協議会ご出席の会員の皆さま、お疲れ様でした。

☆松田新一郎氏: 和田様 本日はありがとうございました。☆新川正人氏: 和田様 卓話ありがとうございました。

☆垣本徳一氏: 和田亮平さん ゲスト卓話ありがとうございました。☆新田喜信氏: 本日、メイキャップよろしくお祈りします。

◆BOX ¥9,000(累計¥320,000) ◆コイン ¥913 (累計¥22,648) 合計 ¥342,648



新里裕樹氏 1日(土) 新賢次氏 2日(日) 大城文博氏 25日(火)  
新川正人氏 25日(火) 大本綾子氏 28日(金)

